

Ⅱ章 調査の集計結果と考察

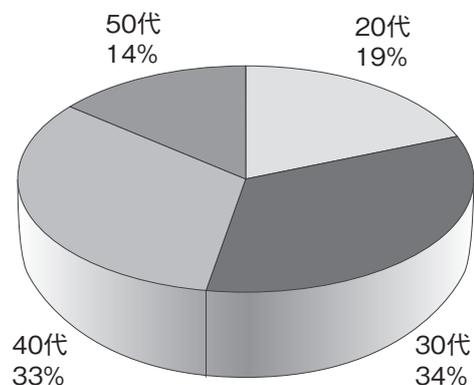
- ◇ アンケート調査の回答は，全質問とも選択肢の中から選択する方式である。
- ◇ 各質問の選択肢の回答状況を示す百分率は，整数値になるように調整した。
- ◇ 集計結果はと小中学校教員をまとめた集計，小中学校教員ごとの集計の3種類である。
- ◇ 上段に集計結果を，下段に考察を記述した。
- ◇ 考察の中には提言として積極的に受け止めていただきたい内容も含んでいる。

Ⅱ章 調査の集計結果と考察

あなたの「年代」、「性別」、「勤務校」についてお聞きします。

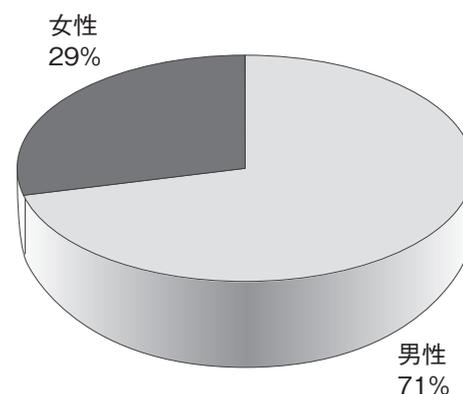
設問1 あなたの年代を聞かせてください。

- ア 20代
- イ 30代
- ウ 40代
- エ 50代



設問2 あなたの性別を聞かせてください。

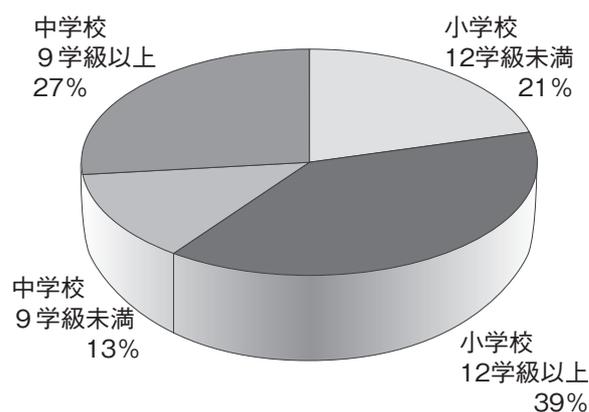
- ア 男性
- イ 女性



設問3 あなたの勤務校について聞かせてください。

(小中学校の記号をまず選んでください。()内には学級数を記入してください。その他は通級指導教室等の数を記入してください。)

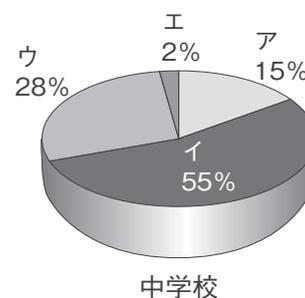
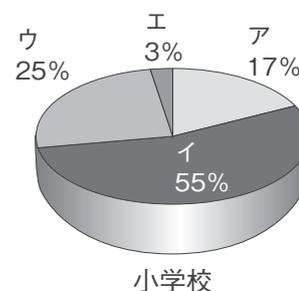
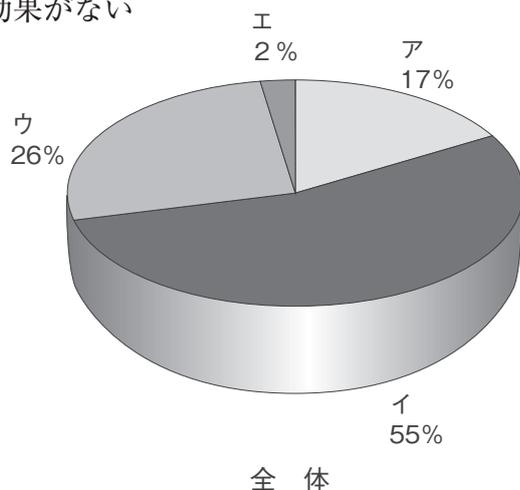
- ア 小学校 通常学級数 () 特別支援学級数 () その他 ()
- イ 中学校 通常学級数 () 特別支援学級数 () その他 ()



I 日頃の勤務の様子についてお聞きします。

設問4 あなたの学校では児童生徒とのふれあいの時間を確保するため会議の削減に努めていますが、あなたは、この取組についてどう思いますか？ (1つ選択)

- ア とても効果がある
- イ 少し効果がある
- ウ あまり効果がない
- エ まったく効果がない



児童生徒とのふれあい確保のために、会議の削減は効果がある。

- 放課後の会議を減らしたとしても、直接児童生徒（以下、「子ども」、「子どもたち」とする。必要の場合は「児童生徒」とする。）とふれあう時間を確保したことにはならない。

放課後の会議がなければ教員に余裕ができ、子どものことを考えることはできる。しかし、現在、放課後子どもたちを学校に残し、ふれあう時間をもつことは難しい。小学校では、終会が終われば子どもを直ちに帰るのが現状である。一方、中学校では、部活動があったり生徒も大きいので、ある程度ふれあいの時間をもつことは可能である。しかし、部活動の現状からすると、放課後のふれあいの時間をもつ教員は一部に過ぎないと推察され、中学校の「効果あり」の23%増は部活動がやりやすくなったことを意味していると考えられる。

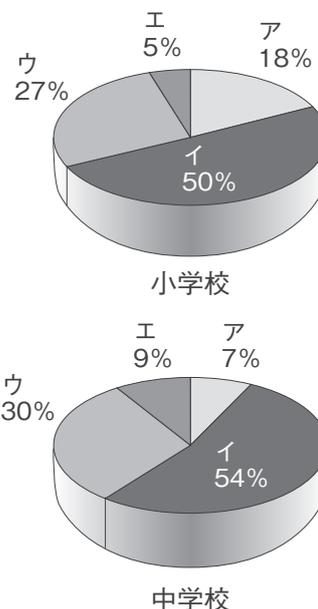
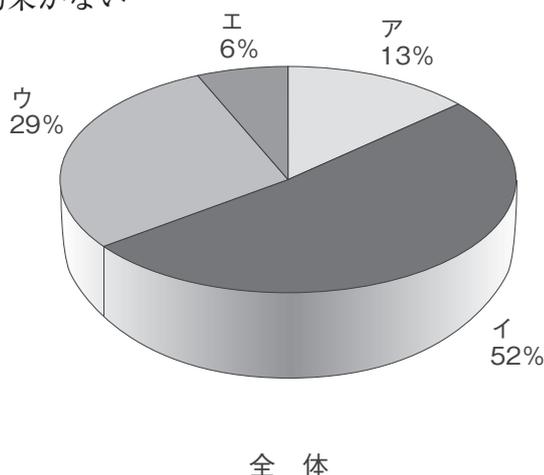
- 職員朝会こそ、考え直すべきである。

会議の削減と同様なものに職員朝会がある。かつては毎朝やっており、かなり長々とやっていたこともあった。現在は週2回くらいに減っている現状にあり、校内メールの活用を含め、短時間で終わらせている傾向にある。筆者の経験ではあるが、職員朝会を一切無くし、代わりに金曜日終会を行ったが、何の支障もなかった。

子どもたちが登校した後の朝の時間をどう使うかが眼目である。子どもたちとの新鮮な出会い、ふれあいをどう演出するか、現在はそのことを考えなければならない時代になっている。

**設問5 あなたの学校では授業時数を確保するため行事の精選に努めていますか、あなたは、この取組についてどう思いますか？
(1つ選択)**

- ア とても効果がある
- イ 少し効果がある
- ウ あまり効果がない
- エ まったく効果がない

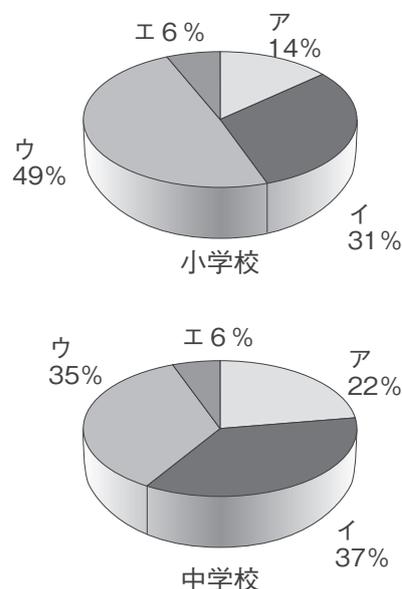
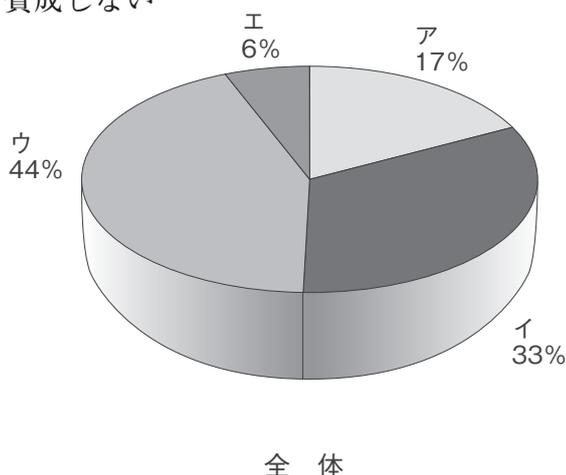


授業時数確保のために行事の精選は効果がある。

- 教科学習の授業時数確保は、必ず達成されなければならない。
 そのために学校行事を精選することは効果がある。しかしながら、各学校はこれ以上精選できないほど学校行事を減らしている現状にある。特に、運動会(体育祭)、文化祭、音楽会など保護者に公開している学校行事は、精選する(とりやめる)ことは、その学校の伝統もありむずかしいが、内容や方法を変えたり、指導過程(練習過程)を縮小したりすることなどについて考え直すことは可能であると考える。
- 持ち込み行事や小さな行事でも、多くの準備が必要である。
 いろいろな機関から行事や協力の要請がある実情にあり、断ることは難しい。
 例えば、自転車交通安全教室などを学年で行うことがある場合、かなりの準備が必要である。計画立案、交通安全協会との交渉、自転車持参児童の決定、保護者へのお願い、当日持参自転車の管理、グラウンドへの道路線の設置(雨の予報であれば体育館に設置……)、想像しただけでもたくさんの仕事が出てくる。
 このような仕事が教員には行事の度ごとにある。
 要請に応えれば、計画立案、諸準備、子どもへの指導など、かなりやることが増え、当然授業(教科の時数)も減ってしまう。内容や方法を研究し、教員の負担を減らすことを考えるべきで、それは管理職の仕事である。

設問6 「自習時間を少なくするため研究発表会等の校外研修会への参加を減らす」という意見がありますが、あなたは、このことについてどう思いますか？（1つ選択）

- ア 大いに賛成する
- イ 少し賛成する
- ウ あまり賛成しない
- エ まったく賛成しない

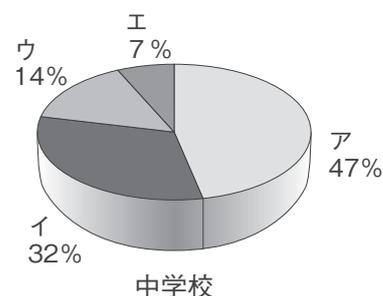
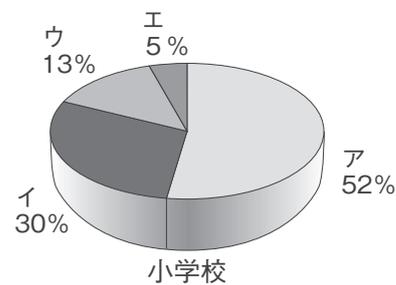
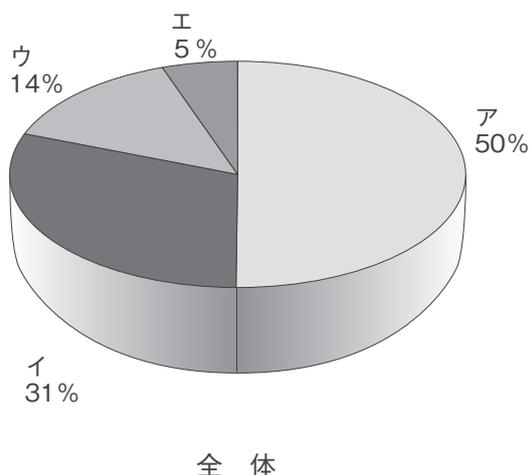


授業時数確保のための校外研修参加削減については両面の考え方がある。

- 校外での研修も大切，授業も大切～出張しやすい環境づくりを～。
 賛否が半々となった。前回より研究発表会参加を減らすことに賛成する割合が増えている。出張がしにくい状況なのではないかと推測される。しかし，他の教員の授業を見て研修することは，自分の授業力・指導力を高めるために有効である。出張できる環境を整えることが大切である。
 出張だけでなく，年休を取って休む場合もある。それらも含めて，出張しやすい学校，年休取得がしやすい学校をつくらなければならない。一方，子どもたちを自習にしない学校体制をつくることも管理職の喫緊の課題であろう。
- 研究発表会の開催日時を工夫する。
 一日公開研究会は，附属小中学校以外はないといってもいい。一般校においては，午後に研究発表会を行うところが大多数である。午後なら参加しやすく，参加する教員の負担もさほど大きくない。授業研究，協議会，講演会など半日でも可能である。また，土曜日に研究会を開催することも考えるべきである。土曜日開催となれば参加する教員は自主参加となるが，子どもの自習などの心配がなく一日余裕をもって参加できる。

設問7 平日、あなたは、家で学校や学級の仕事（事務処理、教材研究、児童生徒への連絡、計画書の作成等）をすることがありますか？（1つ選択）

- ア よくある
- イ たまにある
- ウ あまりない
- エ まったくない



☞ 平日の持ち帰りのある教員が多く、80%を超える。（前回に比べて若干減少はしているが、学校での残業で退勤時刻は遅くなっている。）
家庭では一家庭人としての生活をすべきである。男女の差は無い。

○ 持ち帰り仕事は当たり前

家でもできるアナログ的な仕事が多いと考えられ、授業準備の教科書類など重い荷物を抱えて帰宅する教員は少なくない。例えば、教材研究、授業準備、テストの作成、手書き事務仕事、手書きの学級通信（筆者は、手書きの方がいいと思う。温かみがあり、かつ、臨機応変の吹き出し等による挿し込みもできる）などがある。

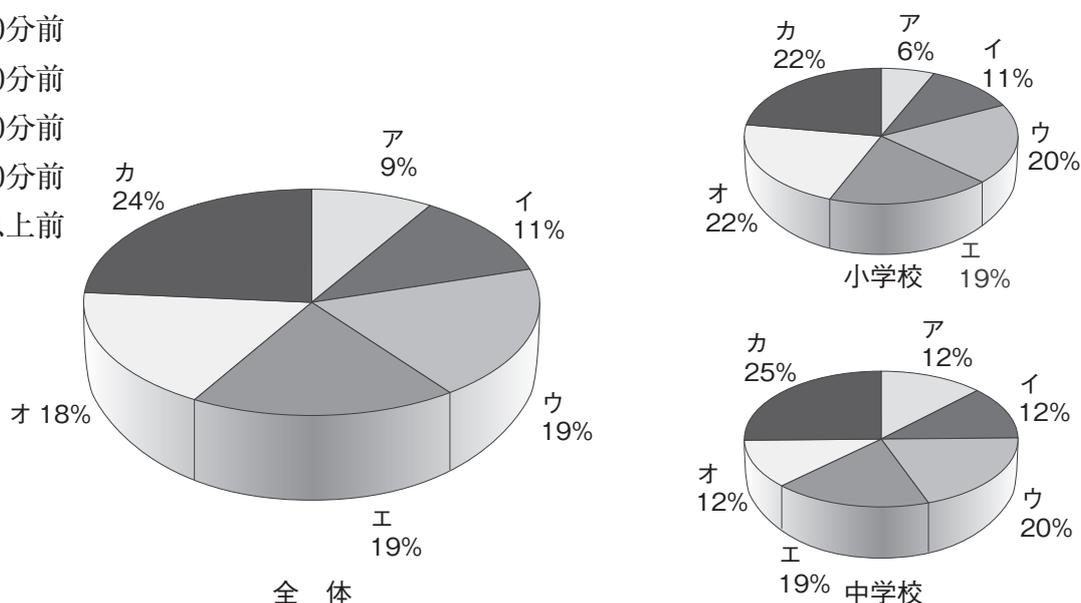
しかしながら、現在はICT時代で、上記の仕事以外に家でもパーソナル・コンピュータ（以下PC）でする仕事が増えている。学校のPCからメールで自宅にデータを送り、家で仕事を続けるなどということも行われている。それほどまでに、仕事が多いのが実情である。

○ 家での保護者対応

保護者への電話は学校ですることが基本である。しかし、どうしても家で教員の側からしなければならぬこともある。また、家に保護者から電話がくることもある。家庭連絡網の作成、教員の自宅電話番号や携帯電話番号を保護者に知らせることの是非などについて学校全体で検討したいものである。

**設問8 平日、あなたが学校に着く時刻は、勤務開始時刻のどれぐらい前ですか？
(1つ選択)**

- ア およそ10分前
- イ およそ20分前
- ウ およそ30分前
- エ およそ40分前
- オ およそ50分前
- カ 1時間以上前



**☞ 出勤時刻は早い。(前回に比べて益々早まっている)
小中学校を比べると、若干小学校の方が早い
男女で比べると、さほど差は無い。男性の方がやや早い教員が多い。**

○ 出勤時刻が早くなるのには理由がある。

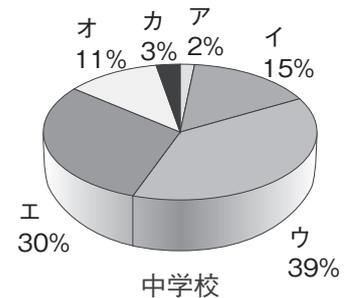
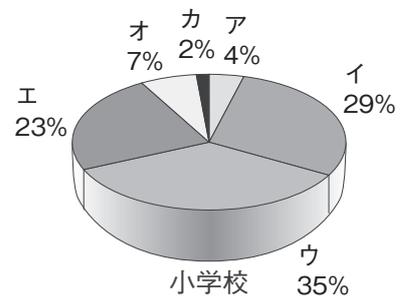
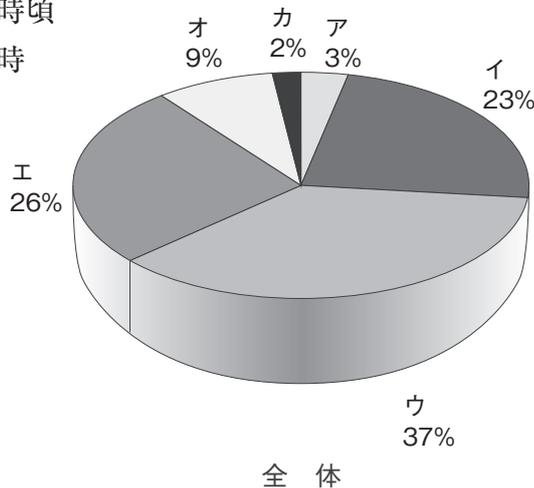
教員の朝の学校到着時刻は早い。また、共働きなどの家庭の事情により、早く家を出る子どもがいるのも実情である。筆者が生活指導主任をしていたとき、「子どもの学校到着時刻が早すぎる。時刻を守らせろ。(集団登校をしていた)」とある教員から言われた。実態を調べ指導はしたが、あまり変化はなかった。子どもは学校が待ち遠しいのである。早く来たがっているのだからいいのでは、と思うこともあった。

このように早く登校する子どもたちと接するためにも、また、始業準備をするためにも(中学校の理科教員には、その日の実験準備のために、毎日勤務開始1時間以上も前に出勤する人もいる。)勤務の特殊性から教員の朝は必然的に早くなる。他のサービス業の窓口開始時刻の在り方とは違う。

新潟市は出勤簿は廃止され、PCによる自己申告になったことから、勤務実態を退勤時刻とともに、出勤時刻も正確に申告してもらいたいものである。朝の早い出勤も、実は超過勤務を増加させている実態にある。

**設問9 平日、あなたが学校を退出する時刻は、だいたい何時頃ですか？
(1つ選択)**

- ア 5時～6時頃
- イ 6時～7時頃
- ウ 7時～8時頃
- エ 8時～9時頃
- オ 9時～10時
- カ 10時以降



**☞ 退勤時刻は遅い。(前回に比べて益々遅くなっている)
小学校教員に比べ、中学校教員は遅くまで残って仕事をしている。
男女で比べると、さほど差は無いが、女性教員も遅くまで仕事をしている。**

- いろいろな教員がいるであろうが、一家庭人として家族と共に夕食をとることができるようにしたい。

単身者もいることだろうが、普通の生活をしたいものである。子育て中の女性教員の苦労を想像すると胸が張り裂ける思いである。社会全体で考えるべき課題である。

- 8時以降に退勤する教員が4割弱存在していることは、大きな課題である。

「TALIS 2013」によると、中学校教員は世界で一番長時間働いているが、授業間は17.7時間で参加国平均の19.3時間より少ない。では、どんなことに時間を使っているのかというと、最たるものが部活指導である。それも若手教員ほどそれに割かれる時間が多いということが統計から分かっている。(『データで読む 教育の論点』から)

 平日の教材研究やワークシートづくりは、学校での勤務時間外、家への持ち帰り仕事で対応している。それが日常化している。
中学校では空き時間を活用している。

- 小学校と中学校の教員とでは少し違いがある。
小学校は、学級担任制で級外教員が出張授業をもっているときのみ、担任は空き時間となる。
中学校は、教科担任制のため、ある程度の空き時間が、教員一人一人にある。
このことから、個人的な仕事を空き時間にするという回答が中学校教員には多い。ただ、その時間で不足する分は、部活動後に行っている。小学校では少人数学級の導入により、級外教員が減少し、学級担任の空き時間が少なくなる傾向にある。

- 特に小学校では、子どもが退校してからの時間の使い方が大切となる。
例えば、小学校では6年生の6時間目が終わって子どもたちが帰ると4時頃になり、職員会議や研修がそれから始まることが多い。会議や研修を減らしたとしても、勤務時間内で仕事ができるのはわずかな時間ということになる。
そのためには、仕事に優先順位をつけ、手際よく進めるようにしなければならない。それにはコツがある。効率的な仕事の仕方などについて、いろいろな本を読んだり、先輩・同僚から貪欲に学ぶようにしたい。自分から進んで立ち向かって行かなければ解決しないのが現状である。